記事広告

特別連載
04
special feature



代表取締役社長
田中 隆宏

卓越した技術力で、斜面の安全を守る

―― 一歩先へ挑戦し続ける企業 ――

長崎県に本社を置くウエノは、1966年の創業以来、九州を中心に法面工事をはじめ土木工事全般を手掛けてきた。豪雨や台風による災害が多い地域で、地すべり対策や斜面工事などを通じ災害に備える社会基盤整備を担っている。2025年8月27日に、総合インフラメンテナンスグループを目指すリライフメンテホールディングスのグループ会社となり、新たな組織体制が始動した。田中隆宏社長に、これまで培った強みやグループへの参画で目指す将来的な企業像、DXを生かした業務の見直しなど成長戦略を聞いた。

―施工時の安全と品質を支える企業の強みとは

強みの一つは測量・調査・設計から施工、維持管理まで、それぞれの専門部門を持つこと。地すべり対策や斜面工事は、現場ごとに異なる地形や地質に合わせた的確な工法で対応する必要がある。これまで設計に関する豊富な知識と経験が受け継がれてきた。多くの社員が設計の意図を深く理解することができて、施工管理に生かせている。

中でも強みといえば、工事中、事前調査では把握できなかった地盤や土質に直面したときだ。工法の見直しが必要になった場合も、専門部署が速やかに対応し、発注者と協議している。

―今後の業務にDXをどのように生かすのか

当社は従来、社内手続きのオンライン化やチャットによる情報共有などでDX促進を図ってきた。事務作業や移動の負担を減らすことで、現場で社員が判断し、満足度の高い顧客対応を徹底するなど、人だからこそできる業務に力を注ぐ環境を整えている。

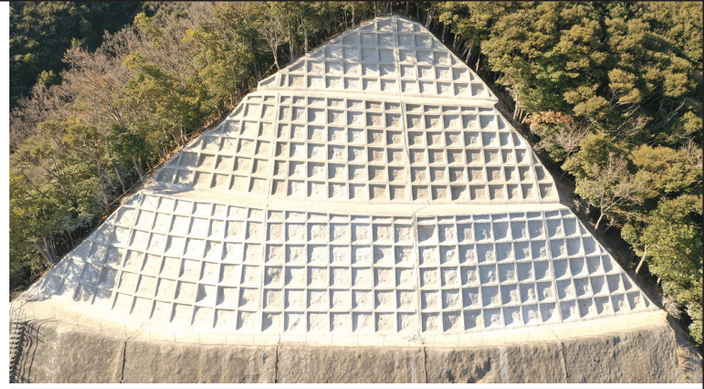
さらに、グループの支援を受け、書類作成や工程管理などの間接業務を担う建設ディレクターも導入した。こうした取り組みで技術者の負担を軽減し、現場に集中できる体制を加速化させる。

今後は、こうした環境を生かして品質をさらに高めたい。効率化によって生まれた時間を使い、顧客の要望にどう応えるのか、施工品質を高めるために何ができるのかを、社員一人一人が考え、行動することが重要だ。

―新しい体制で、どのような企業を目指すか

現場での判断力と対応力をさらに高め、社員が主体的に動く組織。経営層が方針を示すのみでなく、若手や現場の社員が自ら考え、力を発揮することで、会社全体の対応力も高まる。創業以来のチャレンジ精神を受け継ぎ、一歩先を見据えた挑戦を続けたい。

グループの支援を生かして人材を確保・育成し、施工品質や顧客対応の質の向上につなげる。良い仕事を積み重ねることで発注者からの評価と信頼を得て、次の受注を見据えていきたい。会社の成長が、さらに新たな人材を呼び込む好循環を生むと考えている。この好循環を通じて、社員が新しい仕事に挑戦できる機会を広げていくことで持続的な成長を図っていく。







描いた未来を、
この手で築く

UENO 株式会社 ウエノ

〒852-8105 長崎県長崎市目覚町5番1号　TEL.095-894-1022
https://ueno-inc.com/